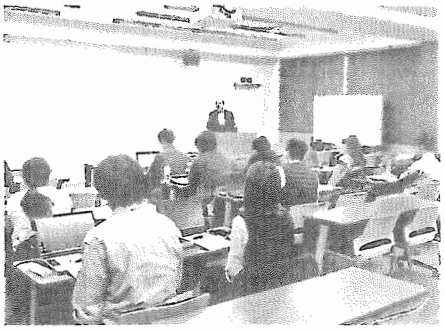
令和８年１１月２日　北海道通信

３Ｄ点群地形モデル学ぶ

日測協　サーベイアカデミー



【釧路発】日本測量協会北海道支部（橋本幸支部長）は10月29日、釧路建設会館でサーベイアカデミー「３Ｄ地形点群モデル解析基礎技術」プログラムを実施した＝写真＝。会員企業の技術者17人が参加し、３Ｄ点群地形モデルやレーザ計測について実習形式で学んだ。

プログラムでは①３Ｄ地形モデル作成の全体像②３Ｄ点群モデルの作成の方法と留意点③レーザ計測技術の概要④レーザ計測による３地形点群処理実習⑤レーザ計測による３Ｄ地形モデル作成実演（等高線、断面図等）点群処理の応用―の５講座を展開。①②は同協会の住田英二専務理事、③④⑤は同協会認定講師でルーチェサーチ㈱の二谷卓氏が講師を務めた。

開会に先立ちあいさつに立った住田専務理事は点群データの作業のポイントと計測について、フィルタリングの大切さを挙げ、成果物の質向上に向け「セミナーを通してヒントをつかんでもらえたら」と期待を寄せた。

引き続き①に移り住田専務理事が講義した。レーザ計測による３Ｄ地形点群モデル作成の手順と精度確保に関する基礎を習得することの大切さを指摘。点群データやレーザ測量の歴史、活用例を解説し「レーザ測量は車載方式や地上方式、ＵＡＶ方式など高密度計測が可能になっている。スマホ搭載型も登場した」と技術の進歩に触れた一方「ソースの異なるデータの重ね合わせは工夫が必要」と課題を挙げた。

引き続き①に移り